

HIROSHIMA UNIVERSITY BioMed News

Hiroshima University Graduate School of Biomedical and Health Sciences

目次

Preface 巻頭言

「分野を超えた融合研究の推進を目指して」

岡村 仁 1

Greetings ご挨拶

「就任のご挨拶」…………… 山口 建 2

「就任のご挨拶」…………… 安藤 俊範 2

My Motto 座右の銘

「大切にしたい4つの言葉」…………… 紙谷 浩之 3

「完成は永遠の未完成」…………… 岡田 守人 3

Excellent Paper すぐれた論文

「*P.gingivalis*の心房感染が心房線維化を増悪し、心房細動を惹起する」
…………… 宮内 俊介・中野由紀子 4

「HLA epletを標的とした臓器移植後抗体関連拒絶の予測と治療」
…………… 進藤 岳郎 5

「若年層で発症する侵襲性歯周炎の原因遺伝子を世界ではじめて明らかに」
…………… 水野 智仁・岡田 賢・吉本 哲也 6

Research Frontline 研究最前線

「医学生が開発した魚の熟成を“光”で見抜く技術」
…………… 渡邊 朋信・宮崎 夏帆 7

「腎線維化の改善とNaチャンネルを基盤とした腎疾患の病態解明」
…………… 正木 崇生 8

編集後記…………… 坂口 剛正 9

分野を超えた融合研究の推進を目指して

大学院医系科学研究科長 岡村 仁



現在、医系科学研究科は分野の壁を超えた融合研究の推進を重点的に進めています。

まず、霞キャンパス内の研究室間の関係強化を目的として、研究力強化専門委員会を中心に「広大霞LabSecretary」を運用し、研究室のカタログ化やリソースの共有を進めています。現在、112研究室が参画しており、研究者間の情報交換の基盤として定着しつつあります。さらに、研究者が直接

顔を合わせて交流することで、新たな分野横断型の研究を生み出すことを目指し、本年度はワイン&チーズ交流会（ドリンクと軽食を楽しみながらの懇談形式）を2回開催しました。第1回（7月10日）は「霞地区教授会合同ポスター発表および研究者交流会」として、新任教授12名によるポスター発表を実施し、76名の教授が参加しました。第2回（10月17日）は「Kasumi-Nexus」の名称で開催し、中堅・若手研究者や大学院生によるピッチトークおよびポスター発表を行いました。大学院生にはアワードを設け、越智学長にもご臨席いただき、184名の参加を得るなど大変盛況でした。

一方で、東広島キャンパスとの連携強化も重要な取り組みと位置づけています。昨年12月には、「ゲノム編集イノベーションセンター連携」「統合生命医科学研究拠点」「医療情報科学連携オフィス」「医工連携」「スマートソサイエティ連携」の5つの霞分室を設置し、東広島キャンパスとの研究者交流を本格的に開始しました。本年度は、さらなる交流促進を目的に、各分室が主体となって「広島大学霞連携推進セミナー」を開催しています。セミナーでは、東広島キャンパスの研究者による研究発表や意見交換、名刺交換を通じて共同研究の機会を探り、今後の発展につなげています。現在までに全8回中5回を実施し、参加者数や共同研究の相談件数が徐々に増加しており、その成果を実感しています。

こうした融合研究を推進していく中、2025年8月21日には広島大学を代表機関、神戸大学・熊本大学を連携機関とする「広島・神戸・熊本 医療革新・研究共同推進イニシアティブ（HK²-MIRAI）」が、国立研究開発法人日本医療研究開発機構（AMED）の「医学系研究支援プログラム」（特色型）に採択されました。全国17件の応募のうち採択は6件のみで、中・四国地域では広島大学が唯一の代表機関です。3大学には今年度から3年間で総額13.8億円（研究費10.8億円、研究環境整備費3億円）が配分されます。本事業では、研究者の研究環境整備を進めるとともに、3大学の強みである「がん・感染症」「神経・免疫・運動器」「代謝・循環」の3つの重点分野を中心に、研究時間の確保や多様性・流動性の向上を図りながら融合研究を推進します。これにより、世界トップレベルの研究成果の創出と、人々の健康・医療課題の解決に貢献を目指します。医系科学研究科としても、今後この取り組みに積極的に関与し、研究基盤の一層の発展に努めてまいります。

